

7. 年級群の推移

年級群とは、同じ年に生まれた物のうち駆除された数を示したものです。オニヒトデは、産卵1年後で直径約10 cm、2年後で約20 cm、3年後で約30 cmとなります。各年に捕獲したオニヒトデは、大まかに分けると5～14 cmサイズは1年物、15～24 cmは2年物、25～34 cmは3年物となります。例えば、平成15年に捕獲した5～14 cm、平成16年に捕獲した15～24 cm、平成17年に捕獲した25～34 cm物は、平成14年に生まれたものといえます。

年級群数は、減少傾向にあります。

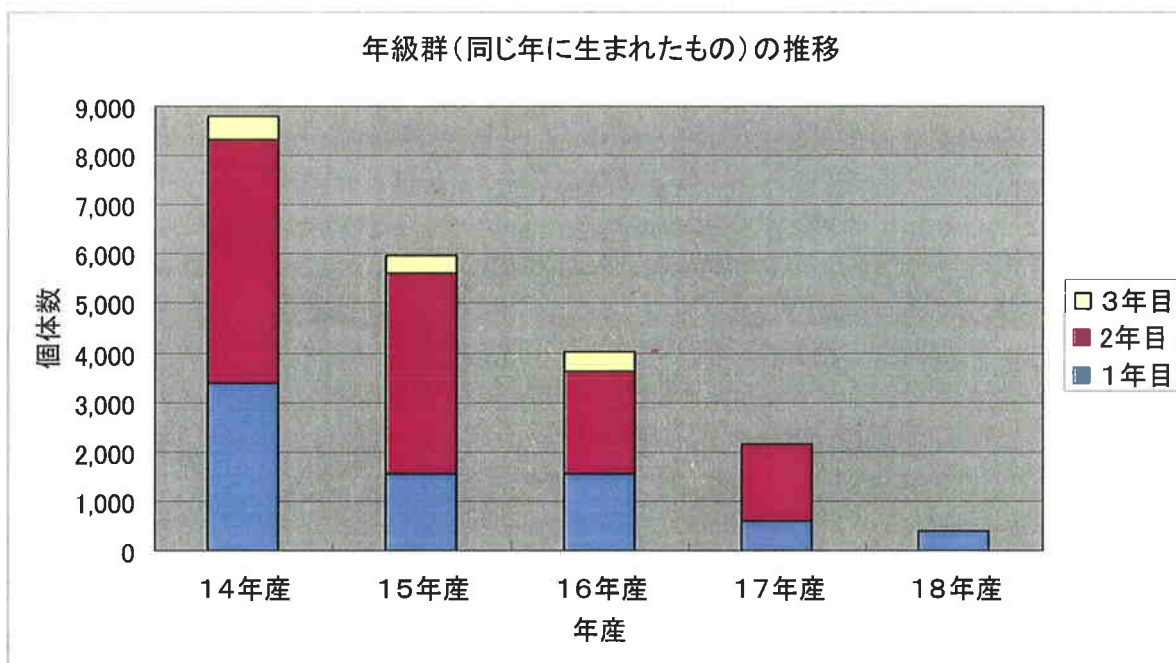
年別のオニヒトデのサイズ組成

サイズ	15年駆除	16年駆除	17年駆除	18年駆除	19年駆除
5-14	3,376	1,564	1,568	601	387
15-24	7,802	4,948	4,038	2,038	1,540
25-34	520	395	466	361	405
計	11,698	6,907	6,072	3,000	2,332

オニヒトデの年級群数

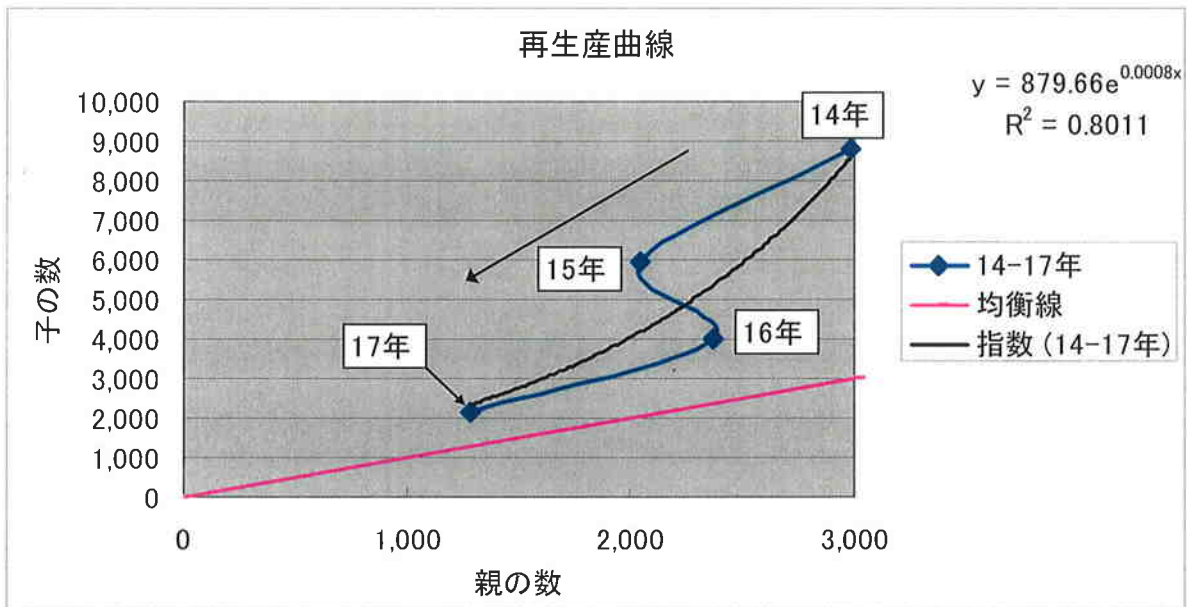
年級群	14年産	15年産	16年産	17年産	18年産
1年目	3,376	1,564	1,568	601	387
2年目	4,948	4,038	2,038	1,540	
3年目	466	361	405		
計	8,790	5,963	4,011	2,141	387

年級群(同じ年に生まれたもの)の推移



8. 再生産曲線

再生産曲線とは、親世代と子世代の増殖の関係を示すものです。横軸に親世代の数を縦軸に子世代の数をプロットしました。具体的には、横軸に産卵群数（5.産卵群数を参照）、縦軸に年級群（7.年級群の推移を参照）をプロットしました。平成14年からの再生産は、親の数が減少すると子の数も減少する傾向が見られました。



また、親の数と子の数が同じになる直線をここでは「均衡線」と呼びます。この直線より上にある場合は、子の数は親の数より増えたこととなります。よって、平成17年の産卵群数1,284匹以上の値では、オニヒトデは増え続けることとなりますので、駆除により更に産卵群数を減らす必要があります。

9. オニヒトデに与える台風の影響について

今年の8月、9月の駆除では、傷が再生したオニヒトデが見られました。これは、7月13日に直撃した台風4号の影響によるものと思われます。台風の影響は、幼生を拡散させることと、波浪等により直接、オニヒトデにダメージを与えている可能性があります。

ちなみに、平成16年は台風の接近が多くあり、平成17年と平成18年は、台風の接近がありませんでした。



平成19年8月7日駆除



平成19年9月5日駆除